

JOSKAS ニュースレター

発行：一般社団法人 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS)

URL:<http://www.joskas.jp/>

〒102-8481 東京都千代田区麹町5-1 弘済会館ビル (株式会社コングレ内) TEL: 03-3263-5394 FAX: 03-5216-5552

年頭のご挨拶

JOSKAS 理事長

越智 光夫



明けましておめでとうございます。新年のスタートにあたり、日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS) 会員の皆様に謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

さて、私は JOSKAS 理事長を今年6月で退任させていただきます。10年間という長きに渡り、理事長職を務めさせていただきましたが、この間約4,000人の会員を擁する学会へと発展を遂げることができましたのは、ひとえに会員の先生方のご支援によるものと心より感謝申し上げます。

JOSKASは2009年に史野根生先生を会長として開催された第1回学術集会ならびにセミナーを嚆矢とします。大阪へのISAKOS誘致が契機となり、日本膝関節学会と日本関節鏡学会という共に長い歴史を有する2つの学会が合体して創設されました。

日本膝関節学会は、日本膝関節研究会 (1975年発足) と東京膝関節学会 (1980年発足) が発展的解消をすることを目的に2000年に統合し設立されました。一方、日本関節鏡学会は高木憲次先生、渡辺正毅先生を中心とする先生方の世界に誇る業績を背景に1975年に設立されました。渡辺先生は1974年に創設された国際関節鏡学会の初代会長に就任され、同時にFather of Arthroscopyの称号が贈られております。JOSKASでは先生の偉大なご業績をたたえてMasaki Watanabe Awardを創設しました。関節鏡あるいは関節鏡視下手術で国際的に高く評価されている先生方に授与させていただいております。第1回のGary Poehling先生およびEjner Eriksson先生をはじめ海外から4人、国内から5人の方々を受賞されました。今や、世界的に見てもレベルの高い、誇りとしていただける賞として育てることができたと思います。

また、若い先生方に英語論文を一層多く書いていただくことを目的に、第6回学術集会 (2014年) に設立した

Outstanding Young Investigator Awardも、延べ14人の受賞者を数えるまでになりました。若手の一層の奮起を期待しております。さらに2015年からは、フランスのSFA、イタリアのSIGASCOTとのフェロウシップによるTraveling Fellowをスタートして、毎年3人ずつの派遣・受け入れを行ってきました。日本から海外に出かけて国際的な視野を養う一方、海外の方には日本の優れた医療技術を学んでいただきながら、ネットワークを築いてほしいとの願いから始めたものでした。

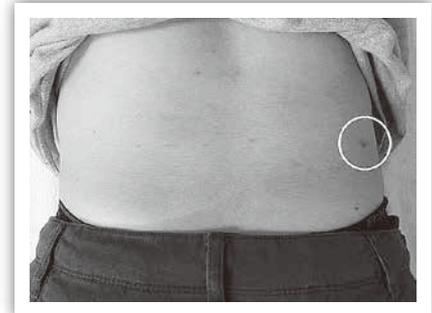
この間の学術集会の歩みを振り返ってみますと、当初は沖縄と札幌を会場にしておりましたが、第7回以降は会員の増加に対応して福岡と札幌の交互開催になり、アクセスやアコモデーションもより便利になりました。また本年6月に福岡で開催する第10回学術集会までの歴代会長の専門分野は、膝が7人、肩、脊椎、足関節が各1人と、膝を中心として各領域にわたっております。まさに「関節鏡、膝関節、スポーツ医学及びその関連分野に関する基礎的・臨床的研究の成果の発表の促進をはかり、ひいては整形外科学の発展に貢献する」ことを掲げたJOSKASの目指すところであり、創立に携わった一人として感慨深いものがあります。

2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。JOSKASも大きな役割を担うことは申すまでもありません。理事をはじめ会員の先生方には、これからの10年、さらには100年後を展望しつつ、世界に誇る日本発の関節鏡の技術と関節外科、スポーツ医学の発展にご尽力いただきますようお願い申し上げます。

会員の先生方ならびに関係各位のご健勝と益々のご発展を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。



経皮的内視鏡下腰椎椎間板摘出術 (PED : percutaneous endoscopic lumbar discectomy) は2003年に帝京大学客員教授 (現) 出沢明先生により日本に導入された。その後、出沢教授およびその門下生により、進化改良を重ねられ現在に至る。PED手術でも、局所麻酔、8mm切開で可能なtransforaminal (TF) 法は背筋群に低侵襲であり、特にアスリートの治療として注目されている。

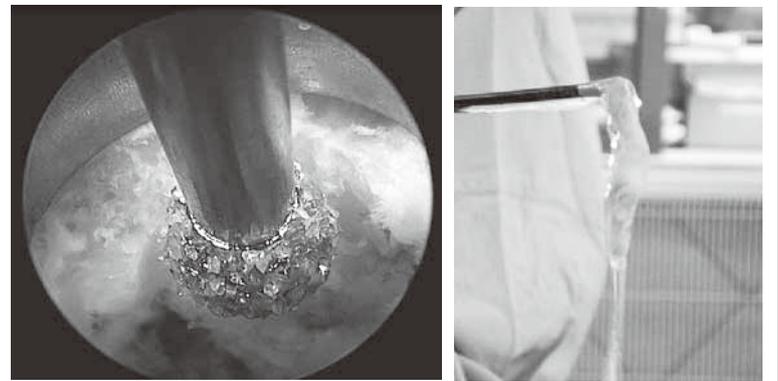


椎間板ヘルニア

TF-PED法は当初、L1/2からL4/5の椎間板レベルのヘルニアに対象が限られていた。L5/sのヘルニアでは骨盤の干渉が、そして、migrateしたヘルニアでは椎弓根が干渉するため、interlaminar PED法が推奨されていた。

近年high speed drillの進化に伴い、intervertebral foramenを拡大させる手技が安定した。それにより、migrateしたヘルニアやL5/s

のヘルニアもTF-PEDで局所麻酔で行えるようになってきた。アスリートでは術後6～8週で復帰を許可している。完全復帰率は約90%であり、再発率は10%である。



椎間板性腰痛

椎間板性腰痛の診断は、時に困難である。特にアスリートでは椎間板変性が軽度であることが多いため診断に難渋する。その場合、T2-MRIでの後方線維輪に見られる高信号領域 (HIZ : high signal intensity zone) が診断の一助となる。若年層でのHIZは椎間板性腰痛の原因となることが多い。椎間板造影での再現性、引き続きおこなうブロックにて腰痛消失が診断の参考となる。多くは保存法が奏功するが、時に頑固な腰痛が続く場合手術を要する。椎間板性腰痛に対する手術のgold standardは固定術である。しかしながらアスリートではmotion preservation surgeryが大原則である。我々は、TF-PEDを応用したradio-pulse thermal annuloplasty (PED/TA) を行っている。Pain generatorとなっているHIZ部や後方のpainful annular tear部に内視鏡を進め、同部をラジオ波で焼灼する。術後リハ、スポーツ復帰は椎間板ヘルニアに準じる。

おわりに

PED法が最小侵襲椎間板手術であることには異論はない。しかしながら、現在の日本では技術認定医は少なく、また教育研修施設も限られている。徳島大学ではfresh cadaverを使用したPEDセミナーをほぼ毎月行っている。また、1-2ヶ月のフェローも受け入れている。今後も、本手技が安全に広まるよう尽力する次第である。

ガイドライン策定委員会 委員長

津田 英一



本委員会は、遠山晴一担当理事（北海道大）を中心に岩堀裕介先生（愛知医科大）、内田宗志先生（産業医科大）、高尾昌人先生（CARIFAS足の外科センター）、中川晃一先生（東邦大）、中前敦雄先生（広島大）、中村俊康先生（山王病院）、前達雄先生（大阪大）、三浦和知先生（弘前大）、望月由先生（県立広島病院）に私（弘前大）を含めた10名の委員と、アドバイザーである出沢明先生（出沢明PEDクリニック）で活動しています。宗田大前担当理事が提案した「形に残る仕事をしましょう」のモットーの下、ガイドライン作成のためのエビデンス構築を主な事業として行っています。

近年、診療ガイドライン作成には膨大なマンパワーと専門知識を要するため、少人数の整形外科医のみでは困難です。さらに主要な整形外科的疾患に関する診療ガイドラインは、

すでに日本整形外科学会にて作成されています。これらをふまえ、本委員会では専門性の高い関節鏡手術に関するシステムティックレビューを行い、学術論文による情報公開によりガイドライン作成のためのエビデンス構築に寄与することを目指しています。

現在、鏡視下バンカート修復術、膝関節骨軟骨移植術、手関節鏡手術のプロジェクトが進行中です。鏡視下バンカート修復術については国際誌に投稿し、最終段階までたどり着きました。これからも会員の皆様のご支援ならびにご協力をよろしくお願いいたします。

JOSKAS委員会 委員 (2018年1月1日現在)

*…アドバイザー

委員会名	担当理事	委員長	アドバイザー／委員					
学会誌編集委員会	松田 秀一	堀部 秀二	赤木 将男 出家 正隆	池内 昌彦 宗田 大	岩堀 裕介 望月 由	齋藤 知行 吉矢 晋一	佐野 博高 —	
社会保険委員会	米田 稔	須田 康文	小谷 明弘 和田 佑一	竹内 良平 —	出沢 明 —	中川 照彦 —	三嶋 真爾 —	
学術用語委員会	田中 康仁	高尾 昌人	阿部 信寛 望月 由	小林 龍生 柳下 和慶	酒井 宏哉 —	二木 康夫 —	松本 秀男 —	
国際委員会	井樋 栄二	黒田 良祐	黒坂 昌弘* 安田 和則	安達 伸生 —	西良 浩一 —	史野 根生 —	松田 秀一 —	
倫理委員会	内尾 祐司	石橋 恭之	上松 耕太 水田 博志	岡崎 賢 —	黒田 良祐 —	中田 研 —	真柴 賛 —	
COI委員会	内尾 祐司	高橋 敏明	阿部 信寛 —	近藤 英司 —	関矢 一郎 —	津田 英一 —	— —	
将来構想委員会	越智 光夫	中田 研	安達 伸生 佐藤 卓	石橋 恭之 関矢 一郎	井手 淳二 武富 修治	井樋 栄二 田中 康仁	黒田 良祐 遠山 晴一	
教育研修委員会	石橋 恭之	井手 淳二	金森 章浩 堀部 秀二	上村 民子 —	出沢 明 —	中川 匠 —	中村 英一 —	
機能評価委員会	出家 正隆	大森 豪	池田 浩 福井 尚志	佐粧 孝久 —	高橋 敏明 —	遠山 晴一 —	中村 憲正 —	
広報委員会	米田 稔	熊井 司	大森 豪 前 達雄	荻内 隆司 —	落合 聡司 —	黒河内 和俊 —	菅谷 啓之 —	
ガイドライン策定委員会	遠山 晴一	津田 英一	出沢 明* 中前 敦雄	岩堀 裕介 中村 俊康	内田 宗志 前 達雄	高尾 昌人 三浦 和知	中川 晃一 望月 由	
専門医制度検討委員会	水田 博志	三浦 裕正	古賀 英之 丸毛 啓史	高井 信朗 —	高橋 成夫 —	土屋 明弘 —	堀部 秀二 —	
定款等検討委員会	吉矢 晋一	北村 信人	出沢 明* 本庄 宏司	小川 宗宏 前田 朗	柏口 新二 眞島 任史	園田 昌毅 —	橋本 祐介 —	
財務委員会	齋藤 知行	安達 伸生	井樋 栄二 中前 敦雄	内尾 祐司 —	越智 光夫 —	近藤 英司 —	津田 英一 —	
ニュースレター委員会	越智 光夫	高橋 成夫	井上 雅之 橋本 祐介	熊橋 伸之 松下 雄彦	佐藤 卓 —	杉本 和也 —	園田 昌毅 —	
関節鏡技術認定制度委員会	宗田 大	石橋 恭之	出沢 明* 土屋 明弘	落合 聡司 中川 匠	木村 雅史 中田 研	菅谷 啓之 二木 康夫	高尾 昌人 —	
学会賞選考委員会	理事長および前・現・次・次々会長、編集委員会担当理事および委員長							
トラベリングフェロー選考委員会	理事長および前・現・次・次々会長、国際委員会担当理事および委員長							
役員選考委員会	必要に応じて開催							
プログラム委員会	必要に応じて開催							

2017 JOSKAS-SFA Traveling Fellowship 体験記

この度、JOSKASとフランス関節鏡学会(SFA)が提携するトラベリングフェローとして、2週間にわたり貴重な経験をさせていただきました。

ボルドーのMérignac Sport Clinicで研修し、リオンではSanty Orthopedic Center、Lyon-Ortho-Clinic、Lyon Croix-Rousse University Hospitalの3施設を訪問しました。その後、マルセイユで開催されたSFA congressに参加しました。

フランスの膝関節外科医はエネルギーで個性的な医師が多かったように感じます。特に、clinic(私立専門病院)では関節鏡治療の専門家が完全に独立しています。手術も看護師と2人だけで、半日に10件以上をこなさなければならないという事情から、手術手技も各医師によって異なるとともに簡略化されています。自家半腱様筋腱を用いた前十字靭帯再建術であれば15~25分で終了します。それぞれの医師が、自分の手術枠内に前十字靭帯再建5件、人工膝関節置換術2件、半月板手術3件といった具合に所

この度JOSKAS-SFA traveling fellowshipに選出され、2017年11月25日から12月10日までフランスで病院見学ならびにSFA congressに参加する機会を頂きました。

はじめに滞在したパリでは、以前に日本でお会いしたDr. Geoffroy Nourissatと再会し、温かい歓迎を受けました。次にボルドーに移動して三日間Mérignac Sport Clinicで研修を行いました。Dr. Pierre-Henry Flurinらの肩関節鏡手術、反転型人工肩関節置換術、Latarjet法を見学し、肘関節外科医のDr. Yacine Carlierとは関節鏡手技の議論等で親睦を深めました。また、毎晩素晴らしいワインで歓待され、その深遠な世界には驚きの連続でした。その後一週間でリオンでは3施設を訪問し、中でもSanty Orthopedic Centerでは、Dr. Arnaud Godenecheの迅速ながらも丁寧な手術手技に感銘を受けました。ボルドーとリオンでは、滞在中にscientific meetingが行われ、研究発表する機会を頂きました。

マルセイユではSFA congressに参加し、日

岡山大学病院 整形外科

古松 毅之



要時間を見積もったうえで手術予定を組んでいます(2つの手術室を掛け持ち)。手術時間が延長してしまうと、午後の執刀医と日帰り手術の患者に影響することから、inside-out法を用いた緻密な半月板縫合などは不可能な状態です。このような医療環境の違いも、フランスにおける膝関節外科医の個性を際立たせる要因であると感じました。

このような機会を与えていただきましたJOSKAS国際委員会・SFA Traveling Fellowship関係者の方々、岡山大学整形外科の皆様、ご同道いただいた米田稔先生・八田卓久先生に心から御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

東北大学 整形外科

八田 卓久



本ではあまり知られていない独創的な手術の報告等、終日興味深く参加させて頂きました。いずれの発表も症例数が多いため、臨床成績を考察するに十分な内容となっており、この点が本邦での臨床研究に比較してインパクトを持つ要因と思われます。今後、臨床研究を行う上で取り組むべき課題についても学ぶことができました。

最後に、滞在中に温かく受け入れて下さったSFAの皆様、貴重な機会を与えて頂いたJOSKASならびに同門の先生方、Godfatherの米田稔先生、古松毅之先生に深謝申し上げます。

2017 JOSKAS-SFA Traveling Fellowship を終えて

ゴッドファザー／日本医科大学 整形外科
米田 稔

JOSKAS と SFA (Société Francophone d'Arthroscopie) との Traveling Fellowship は、若手会員の国際的な活躍を支援し、技術向上と相互の親睦を目的に、日仏の間で毎年交互に派遣されるもので、2名のフェローと1名のゴッドファザーから成ります。

第1回は2015年のSFA-Grenoble学会で、JOSKAS側からゴッドファザーの吉矢晋一先生と2名のフェローがフランスに派遣されました。第2回は2016年のJOSKAS-福岡学会時で、SFA側からゴッドファザーのColombet先生と2名のフェローが来日しました。

今回は第3回で、頼りない私がゴッドファザーとして参加させて頂きました。2017年11月

25日羽田を発ち、Paris 1泊、Bordeaux 3泊、Lyon 6泊、そして最後はSFA学会の開催地 Marseilleに4泊し、12月10日に Traveling Fellowshipの目的を達成し、帰国しました。

このゆったりとした気配りプランの背景には、昨年6月のJOSKAS-札幌学会時にSFA側からコーディネーターとして来日した Geoffroy Nourissat先生 (Geo) の功績があります。事前に Geo と十分な意見交換が出来たため、SFA側が無理のない日程で有意義なプログラムを作成してくれました。お蔭で無事目的を達成できたわけです (図1)。

一方、オモテナシはというと、Paris到着の1日目から Tres Bien!! の連続でした。Bordeaux



図1 SFA-Marseille学会でゴッドファザーとして講演させて頂いた際の締めのスライド

では五大シャトーの1つChâteau Haut-Brionのスペシャル・ツアー、さらにChef Pierre GAGNAIREの星付きレストランでのレセプションと特別尽くめでした。Lyonでは夜景が綺麗なRestaurant Tête d'Oieでのディナーもですが、何と言ってもMarguerite Restaurant Bocuseでお昼に頂いたあの巨大な舌平目のムニエルの味が忘れられません。

TGVは全て一等車でした。またフェロー2名が相部屋になるということありませんでした。唯一の難点はといえばその季節です。地中海沿岸以外のフランスはとても寒いです。ヴァン・

ショをガブ飲みするのも悪くないですが、ヒートテックやウルトラライトダウンは必需品でしょう。

今年はSFAからのフェローをJOSKASで受け入れる年になりますが、来年2019年はRennesで12月11日～14日に学会が開催されJOSKAS側からフェローを派遣します。今回のようなエクセptionalな歓迎も期待できるかも知れません。

フランスが大好きで、元気で若い先生、どうか奮ってご応募ください！

“2018 JOSKAS-SIGASCOT Traveling Fellowship” Fellow 募集のお知らせ

JOSKASでは、国際親善と相互の技術向上を目的として、イタリアのItalian Society of Knee Surgery, Arthroscopy, Sports Traumatology, Cartilage and New Arthroscopy Technologies (SIGASCOT) との間で、2015年よりTraveling Fellowshipを実施しております。

フェローには、受け入れ施設の訪問・見学のほか、SIGASCOT National Congress (2018年は10月3日～5日にイタリア ボローニャにて開催)にて発表いただきます。

また学会からは海外渡航経費を支給し、イタリアでの旅費・宿泊費はSIGASCOTにより提供されます。

つきましては、右記の要領でJOSKAS-SIGASCOT Traveling Fellowship の2018年度フェローを募集致しますので、奮ってご応募のほどよろしくお願い申し上げます。

理事長 越智光夫
国際委員会 担当理事 井樋栄二
委員長 黒田良祐

<募集要綱>

募集人員：2名

応募資格：・JOSKAS正会員・申込時点で45歳未満・英会話が堪能

渡航援助：1人あたり30万円

訪問期間：2018年9月～10月

(SIGASCOT National Congressを含む前後2週間程度)
※7th SIGASCOT National Congress

開催日：2018年10月3日(水)～5日(金)

会場：Bologna, Emilia-Romagna

提出書類：①英文略歴

②英文推薦状

(JOSKAS-SIGASCOT Traveling Fellowship Committee 宛)

③誓約書

④7th SIGASCOT National Congress 2018 abstract
(選考通過者のみ)

※①、③は学会HPより書式をダウンロードください。

※②は指定の書式はございません。

※④は選考通過者にのみご提出いただきます。

(提出締切日はあらためてご案内いたします)

応募締切：2018年2月28日(水)※必着

※①～③をメールにて事務局まで提出のこと

提出/問合せ先：

一般社団法人 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会事務局

〒102-8481 東京都千代田区麹町5-1 弘済会館ビル

(株)コングレ内

TEL：03-3263-5394/FAX：03-5216-5552

E-mail：info@joskas.jp

編集後記

ニュースレター委員会 松下 雄彦 神戸大学

JOSKASニュースレターも第10号となりました。年頭のご挨拶を越智光夫理事長より頂き、アスリートに対する最新のPEDを西良浩一先生からご紹介頂きました。また、ガイドライン策定委員会の活動を委員長の津田先生から、米田稔先生、古松毅之先生、八田卓久先生からは、JOSAKS-SFA traveling fellowのご報告を頂き、会員の皆様にも有用な情報を提供できたのではないかと思います。

さて、年頭のご挨拶に越智光夫理事長からご挨拶を頂きましたが、今年の6月で理事長を退任されるとのことで、改めて、JOSKASへのご貢献やご尽力に敬意を表したいと思います。今後も引き続きお力添え頂いて引っ張って頂けたらと思うと共

に、若手の先生方のパワーを加えてますますJOSKASが発展して日本から世界に発信できるような学会になればと思います。世界への日本のアピールと言え、本年6月にはロシアでサッカーワールドカップも開催されます。同じく6月には第10回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会が福岡で開催されます。日本代表の活躍と共に第10回という節目の会が盛り上がることを祈念致します。Go Samurai Blue & JOSKAS!

